

みわたせばまつのうれごとにしむつるは千世のどちとぞおもふべらなる、とや、このうたは、
ところを見るにえまさらず、

〔榮花物語六藤壺〕人の家に、ちびさきつるどもかひたる所を、花山院、

ひなづるをやしなひたて、松がえのかげにすませんことをしぞ思ふ

〔台記〕久安七年正月廿七日己亥、今日重日也、今朝鶴飛落東三條、車副延與捕之、即切翅、與本所飼之、
鶴俱飼之、

〔大友興廢記十〕藍澤兵部丞鶴を買取事

豊後府内の住人藍澤兵部丞と云者は、佐伯惟眞の高家の侍也、平生白地たる事をつくす、故にさまさまの咄し多き者なり、略中或時府内の町見世棚に、鶴と鴉を出しをく、兵部たち寄り鶴かわんと云で、雅をとりあげて、頭より尾までなで、此黒鶴はいかほどにうるぞと云、亭主此人は聞へ有伴の藍澤なり、鴉を賣てよきあきなひせんと思ひ、其黒鶴は五百文と云、兵部此黒鶴は何れよりもちとちいさきほどに、二百文にうれと云、からすのねにはよきと思ひ、さらばまけて二百文にうらんといふ、代物二百を渡し、鴉をば投のけ、鶴を取て草履取にもたせ出る、亭主是は狼藉なり、此くろき鳥をこそうりて候へとて押とめんとする、其時兵部鶴と鴉を我見しらぬ事の有べきか、我は鶴のねをしてかふたるぞ、是非我を狼藉者といは、奉行所へつれ行て穿鑿を遂、首をきらんにくき奴が云分なりと、瞋りければ、町人理にまけて押留る事叶す、樽肴色々を調へ、所司代寒田所へ持參し、狼藉の押買にあひ、藍澤殿に鶴をとられ候、立置る、御法度の札にも押買狼藉の事は、初條に御座候急度仰付られ候べしと申、則寒田藍澤をよび、其子細をきけば、慥に鶴の直段をとげ、かひ取たると、對談に申によつて、藍澤が理に成ぬ、町人が藍澤を侮て鴉を鶴にしてうらんとせし非道に付て、三十日牢者す、其後町人のわび言によつて、牢者をゆるさる、